

業界の

声



● 山梨県ワイン酒造協同組合

理事長 二澤 茂計氏

現在の日本経済について？

ワインは嗜好品であるので、景況感により全体的な売り上げが左右される。アメリカや諸外国の影響による日本経済の閉塞感から脱却するためには、国内経済の循環、地域と地域との経済交流が一つの有効手段と思われる。

業界及び企業経営について？

ワイン全体の市場規模は、平成10年の赤ワインブームの時に大きく伸長し、ここ数年は落ち着いた動きで推移しているが、国産ワインの出荷数量はワイン全体の1/3にまで低下した。

これは、「ワイン情報の7割はロンドン発」と言われることに起因する。輸出をほとんどしていない国産ワインの情報が世界最大市場の英国から発信されないからである。日本食ブームにより、海外において日本食レストランが増加している。また、英国で白ワインの消費が伸びているので、今が英国市場に乗り込む絶好のチャンスである。現在、甲州ワインの本格的な輸出に向け準備中であり、将来的には出荷額の1〜2割を輸出したいと考えている。

また、国内においては、日本食の頂点である京都からの情報発信が重要であると考えており、中央会などの協力により2年続けて、ワインの販路拡大のためのイベントを開催し、好評を得ている。

当社の「グレイス甲州2007」が昨年の国産ワインコンクールで金賞を受賞することができた。また、JALのファーストクラスにも甲州ワインが採用され、国際的にも評価が高まってきている。加えて、剪定作業体験、料理とのマリアージュなど各種ワイナリーツアーを実施することにより、ワインへの理解が深まり、販売が増加している。

今後は、ワインの基礎となる勝沼の風景や自然を感じてもらったために、産地が一丸となってワイナリーツアーを実施する必要がある。ワインファンを確実に増やすことにより、農業を含めた地域全体の活性化につなげたい。



ブドウ剪定ツアーの説明風景